

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られた”JR東日本の真実”

### 「マングローブ」ダイジェスト版 第19回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

#### インタビュー (4) 革マル派の学園支配を断ち切った8年間の闘い

前早稲田大学総長・奥島孝康氏

ではいったい、早稲田大学では過去、年間いくらの資金が革マル派に吸い上げられていたのか。こう私が問うと、奥島氏はそれまで見せなかった苦渋の表情を浮かべ、こう答えたのだ。「年間、ウン億円としか言えない。正確な数字を言うのは難しいし、何より早稲田の恥ですから……」公安当局によると「革マル派が早稲田から吸い上げていた資金は年間2億円以上にのぼる」という。その資金ルート遮断に成功した奥島氏は続いて、学内の拠点潰しに取りかかる。奥島氏が続ける。「第2、第3学生会館、そして1、3、8、11号館の地下が彼らの拠点でした。革マル派の活動家が自由に出入りし、寝泊まりできるアジトとして使っていました。そこで01年7月に、これらの施設はすべて使用禁止にしました。同時にサークル部室は、新たに建設した新学生会館に移転。利用者は登録制にし、カードキーを持っていないと入れないようにしたのです」ここまで徹底した革マル派追放に、奥島氏を駆り立てたものは、いったい、なんなのか。奥島氏が語る。「何より許せなかったのが、他の学生の『自由』を決して認めようとしなない革マル派の姿勢です。早稲田ほど、自由を愛する大学はない。しかしその早稲田では30年間、『自由を愛する』という美名のもと、『他者の自由を認めない者の自由』、つまり『革マル派の自由』だけを認めるというバカなことがまかり通ってきた。まだ法学部長になる前の話です。学生たちと話していたら、そのなかの一人が突然ふーっと、泣き出すんですよ。彼は大学生になったら、あんなこともやりたい、こんなこともやりたいと、いろんな夢をもって早稲田に入ってきた。しかし早稲田では事実上、革マル派の検閲で認められなければ、新しい学生活動は何一つできなかったわけです。もし彼らを見捨て、学生たちが新たなことをやろうとすれば、革マル派は彼らを徹底的にいじめて潰すわけですよ。学内で待ち伏せしたり、下宿にまで押しかけて脅し、時には暴力までふるう。よく、あそこまでやるなと思いました。そのときに断じて彼らを許さないと考えたのです。早稲田ではこんなバカなことが30年間、まかり通っていたんですよ。そしてそうやって泣く泣く夢を諦めた学生たちがたくさんいたことを、教授たちも知っていたわけです。でも見て見ぬふりをしていた。そういう教授たちに僕は、『あなたは本当に早稲田の先生なのか』と言いたい。外ではいろいろ、格好のいいことを言っているくせに、『本当に学生のためになることは言いたい、なんなのか』を、まったく考えていない。そんな教授がいる早稲田は一度、ひっくり返さなければいけないと思ったのです」奥島氏が総長に就任するまでの、30年間の早稲田大学の惨状。これは今なお、革マル派に支配され続けているJR東日本の現状と酷似している。

【マングローブ（講談社）P.324～P.326】